

麗澤海外開発協会 会報

平成 15 年
(2003 年)
11 月 1 日
創刊号

第 1 巻 第 1 号
年 3 回発行

主な記事

巻頭言 会長挨拶 (廣池幹堂)
インタビュー 竹原茂氏に聞く
ニュース 麗澤大学で畑美奈栄氏が講義
会費・寄付金報告

発行所：財団法人麗澤海外開発協会
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1
TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
発行人・岩田啓成 / 編集人・横山守男

これまでの実績を踏まえ、積極的な国際協力を 会報の発刊に寄せて

財団法人麗澤海外開発協会 会長 廣池 幹堂



このたび、財団法人麗澤海外開発協会の会報が発刊されることになり、まことにご同慶の至りと存じます。

当協会は「発展途上国において文化・経済の発展に協力するため、人材の育成と技術指導を行い、もって世界の平和、人類の安心と幸福に寄与すること」を目的に、1971年(昭和46年)に外務省所管の公益法人として設立されました。以来、30年以上にわたり、発展途上国における文化・経済の発展に資する人材の育成と技術指導を推進し、今日に至っています。

これまでの事業としては、最初、1971年にラオス王国に技術者を派遣して農場開拓を進め、野菜の栽培や養蚕事業に着手し、特に養蚕事業では大きな成果を上げました。続いて1978年に中米コスタリカ共和国において観葉植物の栽培と輸出事業等を行い、同国における植物栽培技術の向上と輸出産業の育成に大きな貢献をしました。現在では、主にネパールにおける鍼灸専門家の育成および無料巡回治療を実施する事業への助成、タイ北部での少数民族の子

供たちの生活・教育施設の運営(メーソック財団)等への助成を推進しています。

そして本年より、これまでの支援活動に加えて、新たに「竹原基金」を設けて積極的な活動を展開しております。この基金は、元ラオス人で現在は麗澤大学教授・当協会理事の竹原茂(旧名：ウドム・ラタナヴォン)氏が発起人となり、東南アジア諸国で貧困等の理由で学校へ行けない多くの子供たちのための教育助成事業を実施するものです。

そこで、当協会の諸事業を積極的に推進するために、本年5月より会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等をお願いしましたところ、10月末現在で個人会員83名、法人会員13団体のご入会をいただき、竹原基金にも多大のご協力をいただいております。紙上をお借りして、厚く御礼を申し上げます。このような諸事業を実施するためには、皆様方の絶大なるご支援とご協力が必要不可欠です。今後とも、この会報を一人でも多くの方々にお読みいただき、当協会の諸事業に対するご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

21世紀を迎えた今日、先進各国と発展途上国との経済格差はますます広がってきております。麗澤海外開発協会では、これまでの実績を踏まえ、あらためてその使命を確認し、発展途上国の人材育成、技術指導、教育助成事業など、積極的な国際協力を推進していきたいと念願しております。

インタビュー

目に見える援助と「教育」の視点に立った国際協力を

麗澤大学教授・麗澤海外開発協会理事 竹原 茂 氏



プロフィール

旧名ウドム・ラタナヴォン。1945年(昭和20年)ラオス南部のサヴァンナケット県に生まれる。ピエンチャン市のフランスの高等学校を卒業後、1965年、文部省(当時)の国費留学生として来日。東京外語大学を経て、一橋大学経済学部卒業。71年、囑託として麗澤海外開発協会の事業活動に尽力。その後

ラオスに帰国し、73年、ラオス政府経済計画省計画課長として従事するが、国内情勢の不安定のため再度来日し、一橋大学大学院に入学。75年、ラオスでの共産党政権樹立によって帰国を断念し、政治難民として日本に亡命。以後、難民救済運動に尽力、在日ラオス協会会長、難民を助ける会委員、アジア連帯委員会常任理事、モラロジー国際救援運動推進委員会委員等を歴任する。その一方で、日本の国籍法改正運動に精力的にかかわる。85年より、タイ北部の少数民族の支援活動を行う「メーコック・ファーム」(2003年、タイ政府より「メーコック財団」として認可を受ける)を支援、日本支部会長を務める。

1978年、麗澤大学外国語学部非常勤講師となり、87年に助教、96年より教授。また、麗澤海外開発協会理事としても活躍。

麗澤海外開発協会との出会いについてお聞かせください。

竹原 麗澤海外開発協会の発足の契機となった最初の事業は、ラオス王国における養蚕開発事業でした。ピエンチャン商工会議所会頭のカンバイ・ピラパンデ氏所有の農地に、共同出資による「レイタク・カンバイ農場」が設立され、協会からは青年指導者が派遣されて野菜の栽培や養蚕事業等が行われたのです。そして67年にカンバイ氏が来日し、麗澤海外開発協会の初代会長の廣池千太郎先生(モラロジー研究所第3代所長)との対談が行われました。そのとき、一橋大の学生だった私が通訳を担当したのです。それが私と麗澤海外開発協会、そして廣池先生との出会いでした。それからは協会スタッフへのラオス語の指導などに協力するため、毎月のように廣池学園を訪れるようになり、廣池先生とも親しくお会いでき、教職員の方々とのすばらしい出会いも生まれました。そして、71年から協会の囑託としてお世話になりました。

その後、ラオスに帰国されましたね。

竹原 協会が、ラオス王国のフムパン・サイヤーシット

経済計画大臣を学園にお招きしたときのことで。大臣から「ラオスの経済再建のためにも、ぜひ戻ってほしい」というお言葉があり、廣池先生や協会役員の方々からも「ラオスが君を必要としているときだ。ラオス再建のために尽力してはどうか」というお話をいただき、72年に私は妻と子どもを連れてラオスに帰国し、翌年、経済計画省の計画課長として入省しました。もともとラオスは王制で自由主義国家でしたが、私が帰国したころから共産政権が台頭してきました。私は日本で学んできた自由経済のあり方を述べましたが、共産政権には受け入れられず、身の危険を感じるようになりました。この状態では日本人の妻や子どもと暮らしていけないと判断した私は、再び文部省の奨学生として来日し、一橋大学大学院へ入学しました。そして、廣池先生のご厚意で廣池学園の職員住宅に住まわせていただき、ようやく家族で安心して暮らせるようになりました。

ラオスは75年に王制が廃止されて共産主義国となり、私はラオスへの帰国を断念し、そのまま「難民」として日本に亡命しました。また、76年には、ラオスにおける麗澤海外開発協会の事業の完全撤収が決定されました。

その後、難民救済活動に尽力されるようになりますね。

竹原 幸いに私は日本で暮らすことができましたが、難民として亡命した同胞のラオス人のことがいつも気がかりでした。そこで、有志とともに「在日ラオス協会」を設立し、祖国に帰れずに日本で不法残留となったラオス人を支援する活動を始め、さらに、「難民を助ける会」「アジア連帯委員会」を立ち上げ、日本国内の難民支援の輪を広げていきました。また、一橋大大学院を卒業後、私は麗澤大学に助手として採用され、モラロジーを学ぶようになりました。その教えに共感した私は、モラロジー研究所の皆さんにも協力をお願いしたところ、研究所の国際協力活動と結び付き、「モラロジー国際救援運動推進委員会(MIRIC)」の活動が始まりました。

何よりも、難民である私の身元保証人となってくださった亡き廣池千太郎先生の温かいご厚意を決して忘れることができません。先生のおかげで今の私があります。本当に心から感謝しています。

少数民族の救援活動にも尽力されておられますね。

竹原 実は、少数民族は難民と同じような扱いを受けています。そこで、タイ北部で恵まれない少数民族の救援活動を行う「メーコック・ファーム」への支援を始めました。この施設は、アヘン中毒患者の治療後の更生、農業の技術指導、若者の指導者養成といった支援活動を行っています。今年 3 月には、タイ政府から「メーコック財団」として正式な認可を受けました。

私は、難民救援活動は単なる経済的な支援だけではなく、常に「教育」という視点に立って活動することが重要だと思います。今、麗澤大学でフランス語やタイ語、東南アジアの社会と文化を教えています。その一方で、私の経験を学生たちに話し、「難民とは何か」「貧困とは何か」「少数民族とは何か」を共に考え、本当の意味の国際協力を教えたいのです。しかし、いくら難民や貧困の知識を教えても、現地の人々の生活を実際に見聞きしなければ、その悩みや苦しみはわかりません。ですから、学生を連れて「メーコック・ファーム」を訪れ、タイ少数民族の生活を視察し、ボランティアを体験する「タイ・スタディー・ツアー」を、88 年から毎年実施しています。また、麗澤大学の学生は「プアン」(タイ語で「仲間」の意)というサークルを結成し、国際協力活動を行っています。

麗澤海外開発協会に「竹原基金」が設立されましたね。

竹原 タイ政府は少数民族の子どもたちのために学校をつくりましたが、実際は鉛筆も教科書も不足し、満足な教育も行えないという状態でした。また、小学校を卒業しても、貧しいために中学校へ進学できない子どもたちが大勢いるのです。そうした現状を麗澤海外開発協会の現会長である廣池幹堂先生はじめ、協会の皆さまがご理解くださり、今回「竹原基金」を設立していただきました。この基金の目的は、タイやラオス、ビルマ(現ミャンマー)を中心とした東南アジアの貧しい子どもたちや少数民族の子どもたちの教育を助成し、支援することにあります。そして、私はこの「竹原基金」が麗澤海外開発協会の活動のさらなる発展につながることを期待しています。同時に、これからのモラロジー国際協力の一端を力強く担うものだと信じています。ぜひとも、多くの方々からのご支援を心からお願いしたいと思います。

(モラロジー研究所刊『れいろう』2003 年 9 月号「この人に聞く」より要約)

● ● 現地集合 現地解散 ● ●

ネパール スタディツアー募集



麗澤海外開発協会が援助・協力しているティテパティよもぎの会が行っているヘルスカンプ(無料巡回治療)に参加するほか、現地の NGO を視察するツアーです。

参加者各自がカトマンズ空港に集合し、日程終了後、同空港で解散するスタディツアーですので、海外旅行が初めてという方にはお勧めできません。

【日程】

平成 16 年 2 月 7 日(土) ~ 2 月 17 日(火)(11 日間)

2 月 7 日(土) カトマンズ空港集合(TG319 便指定)

8 日(日) 事前研修

9 日(月) ~ 15 日(日)

巡回治療(ヘルスカンプ)参加

16 日(月) 現地 NGO 視察

17 日(火) カトマンズ空港解散(TG320 便指定)

現地の状況等により日程が変更されることがあります。

【参加費】

参加費：40,000 円

参加費に含まれる費用：

集合から解散までの宿泊費、昼食代、送迎費、コーディネート費用

参加費に含まれない費用：

日本 - ネパール間往復航空券、空港利用税、旅行保険料
航空券の手配、滞在延長、その他のご希望については
ご相談ください。

【応募資格】

- ・ 年齢 18 歳以上(20 歳未満の方は保護者の承諾書が必要となります)
- ・ 健康状態が良好な方
- ・ 当会の活動に関心がある方

【募集定員】

8 名

【必要となるもの】

- ・ パスポート(有効期限 6 ヶ月以上)
- ・ ネパールビザ(入国に際して必要となり、カトマンズ空港で申請できます。その際、写真と 30 ドルが必要となります。ビザ申請用紙は事務局にあります)

【応募方法】

申込締切：平成 15 年 12 月 31 日(水)

申し込み用紙をご請求ください

申し込み用紙に必要事項を記入し、パスポートコピーを添えて、事務局へご送付ください。

【お問い合わせ・申し込み先】

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1

(財)麗澤海外開発協会(岡戸)

TEL : 04 - 7173 - 3165 FAX : 04 - 7173 - 8953

E-Mail : emiokado@ga.reitaku-u.ac.jp

麗澤大学で畑美奈栄氏が講義 ネパールにおける鍼灸医療の現状を紹介

講義を行う畑氏(左は竹原教授)



10月3日、麗澤海外開発協会が支援しネパールで活動している「ティテパティよもぎの会」代表の畑美奈栄氏の講義が、麗澤大学の竹原茂教授の授業(国際協力論)の中で行われました。

大学生約40名が参加する中、畑氏はよもぎの会の設立経緯やネパールの現状、プロジェクトの実施内容などを紹介し、ご自身の体験を通して国際協力のあり方を講義されました。

畑氏は「ネパールでは、病院は大都市にあるものの、地方にはほとんどないのが現状です。また病院があっても、高い治療代が払えないために、治療を受けられない人たちがたくさんいます。そこで私たちは無医村に向いて、鍼灸による無料

巡回医療を行い、年間2万人以上の患者を治療していきます」と活動の現状を紹介。

さらに今後の活動ビジョンについて「もぐさ工場と常設クリニックを建設するプロジェクトを進めていきます。もぐさは女性や子供、車椅子や目の不自由な人たちにもできる比較的単純な作業です。また製造時にできた粉よもぎから、クッションや入浴剤などを作っていくことも考案中です。最終的には医療活動や工場の運営まで、すべてネパールの人たちでできるようにするのが目標です」と熱く語られ、学生たちも真剣なまなざしで聞き入っていました。

たくさんのご支援ありがとうございました

本年5月から会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等をお願いしましたところ、皆様から多大のご協力をいただきました。紙上を借りて厚く御礼申し上げます。お寄せいただいた会費や基金・寄付金は、東南アジア諸国で貧困等の理由で学校へ行けない子供たちに対する教育助成事業、ネパールにおける鍼灸専門家の育成と無料巡回治療を実施する事業等に役立たせていただきます。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

種類	年 額
個人会費	1口 1万円(1口以上)
法人会費	1口 1万円(3口以上)
一般寄付金	任意の寄付金を募ります
竹原基金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164
名義 (財) 麗澤海外開発協会
通信欄にご寄付の種類をご記入ください。

銀行口座：東京三菱銀行松戸支店 普通 4057567
名義 (財) 麗澤海外開発協会

個人会員 (平成15年10月末日現在・以下同様)

(敬称略)

廣池幹堂、野中均、廣池英行、甲良昭彦、宮崎珠徳、望月雄二、内田誠一郎、青木丈幸、野村隆紹、小澤晴夫、嶋田順子、関哲夫、松浦鐵三、岸本収、木下廣太郎、松本義一、井上貞廣、大橋政夫、宮島達郎、秋田嘉昭、山口明、阿部栄次、丸山康則、平野昭子、三井実、坂口美代子、永井四郎、新井秀啓、永田善幸、寺西修三、河村亘、内田八代、小谷真紀子、横山守男、中村修一、石動春雄、木野村教眞、小松務、福澤清治、長谷虎治、長谷和治、竹原茂、滝川和彦、大井武、宮嶋邦彦、堀部房男、大河原良雄、荒木郁雄、荒木利郎、林正勝、白木和彦、白木ふさ子、柴山清和、山川毅、渡邊安春、戸川賢一、渡辺康博、丸山駿一、原田忠、高松宇佐雄、西村利行、高松昭英、齋藤芳男、橋本ハルコ、重岡タミ子、杉浦廣道、平川恵一、山本祥子、内田由司、大山寿々枝、西岡未人、西村マサノ、栗田雪枝、岩田哲太郎、井上千多枝、山本崇之、伊藤一郎、太田信義、望月賢一、橋本半兵衛、岩田啓成、大谷誠之、望月靖子[合計83名]

法人会員

有限会社杉山電気商会(杉山久和)、ジャトー株式会社(小野剛)、野田ミート株式会社(野田好秋)、株式会社ピアかざりや(新井秀啓)、株式会社マースター(河村亘)、神原仏壇店株式会社(神原重典)、坂井モロロジー事務所(伊藤忠雄)、株式会社百扇(百合草昭暁)、有限会社大井農園(大井武)、有限会社白木園芸(白木和彦)、株式会社赤塚植物園(赤塚充良)、大田モロロジー事務所(松田貞夫)、株式会社ローズ・オブ・ローゼズ(大野裕朗)、カメヤマ株式会社(谷川誠志)[13団体]

一般寄付金

野中均、甲良昭彦、小泉隆司、野村隆紹、関哲夫、阿部邦夫、木下廣太郎、山口明、小野光江、坂口美代子、永井四郎、小谷真紀子、榑崎忠彦、長谷虎治、長谷和治、浜本勝利、長谷川武、田島政芳、原田忠、藤本秀雄、久村智慧、杉浦廣道、西岡未人、高松クニ子、鈴木愛吉、加藤栄一郎、岩田啓成、伊藤壽洋、佐藤安彦、大谷誠之、琴谷達郎、御代川克之、ジャトー株式会社(小野剛)、佐野モロロジー事務所(栗原原男)、泉大津モロロジー事務所(川端利彦)、株式会社イシダ(石田隆一)、川崎モロロジー事務所(齊木貴)[32名、5団体]

竹原基金

廣池幹堂、甲良昭彦、服部道雄、青木丈幸、野村隆紹、関哲夫、松浦鐵三、木下廣太郎、井上貞廣、大橋政夫、松田和夫、宮島達郎、山口明、田中駿平、丸山康則、山田莊一、平野昭子、服部英二、三井実、坂口美代子、永井四郎、新井秀啓、寺西修三、岩田敏夫、小谷真紀子、横山守男、小松務、長谷虎治、長谷和治、竹原茂、滝川和彦、大井武、堀部房男、土谷和光、荒木郁雄、荒木利郎、白木和彦、白木ふさ子、金子幸子、丸山駿一、原田忠、平川恵一、平川種徳、西岡未人、西村マサノ、栗田雪枝、山本崇之、福田重造、木野千代子、村木基純、齋藤久子、安達俊子、鋤柄勤治、飯島孝史、橋本半兵衛、岩田啓成、柏谷康博、徳永陽子、平百絵、平英幸、鈴木良夫、大谷誠之、宮脇常夫、畑美奈栄、御代川克之、加藤信次、ジャトー株式会社(小野剛)、野田ミート株式会社(野田好秋)、株式会社赤塚植物園(赤塚充良)[66名、3団体]